

あきらめたらおしまい
- 自分の未来は自分の力で切り開こう -

林 明夫
(栃木県経営者協会 会員)

1. はじめに

(1) 本日の講演の目的

厳しい経済状況の中ではあるが、就職とは何か、仕事とは何か、何のために働くのかを自分の人生の中で真正面から考え、また、雇われる能力を身に付けながら就職戦線を勝ち抜くにはどうしたらよいかを考える。

自社も含め数多くの企業、非営利法人での実体験を踏まえ、採用試験に臨むまでの手順、採用試験に際しての注意点、内定後入社式までの過ごし方、入社後3年間の過ごし方、退職に際しての心得、休職期間中の過ごし方、再就職に際しての心構え、定年までの過ごし方、定年退職後の過ごし方、創業の心構えなどを具体的にわかりやすく解説する。

参加者全員が本人の希望する職業に就けることを心から願いお話しします。

(2) お願い

一所懸命に一期一会の精神でお話しします。おしゃべり、ケータイ、居眠りはお避け下さい。必要なところはメモをお取り下さり、帰宅後何回も読み直して下さい。

(3) 講師プロフィール

株式会社 開倫塾 代表取締役社長

マニー株式会社(手術用縫合針製造) 社外取締役

学校法人 有朋学園 東日本高等学院 理事長(福島市)

社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 理事(足利市)

栃木県教員委員会 栃木県社会教育委員

公益社団法人 経済同友会 幹事、サービス産業活性化委員会 副委員長

社団法人 栃木県経済同友会 幹事

社団法人 栃木県生産性本部 理事

栃木県産業協議会 理事

とちぎニュービジネス協議会 理事

足利商工会議所 議員(11月より)

宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

開倫ユネスコ協会 会長

開倫研究所 所長、教育経営品質研究会 主宰

CRT 栃木放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25 24年間担当

慶應義塾大学法学部法律学科卒業。卒業後、29歳まで慶應義塾大学法学部司法研究室研究生

世界銀行研究所(1998年)ハーバード大学国際開発研究所(1999年)で各々民营化短期集中コース修了

2．現代社会の特徴とこれからの社会で求められる基本的な能力とは

- (1) 知識基盤社会 ... 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力
- (2) 国際化社会 ... 多様な集団で交流する能力
- (3) 少子高齢化社会 ... 自律的に活動する能力
- (4) これからの社会で求められる基本的な能力の前提
 - 「学び方を学ぶ」能力を身に付けていること
 - 「読書による思慮深さ」を身に付けていること
 - * 新聞を読んで自分で考える能力、批判的思考能力(Critical Thinking クリティカル・シンキングする力)を身に付けていること

3．基本的な考え

- (1) 自己責任、自助努力(self-help セルフ・ヘルプ)。自分のことはすべて自分で行う。
- (2) あきらめたらおしまい、自分の未来は自分で切り開く。

4．仕事とは何か、何のために働くのか、雇われる能力とは何か

- (1) 仕事とは何か
 - 顧客の問題解決、お客様のお役に立つこと
 - 社会の問題解決、社会のお役に立つこと
 - 正常に機能する社会、持続可能な社会の形成に寄与すること
- (2) 何のために働くのか
 - 生活できるだけの収入を得るため
 - お客様のお役に立つこと、社会のお役に立つこと
 - 自己実現
 - よく生きるため
- (3) 雇われる能力(employability エンプロイアビリティ)とは何か - よい仕事をするためには -
 - メモを取り、メモを身に付ける - 仕事はメモで身につける -
 - 学び続ける - 教育ある人とは勉強し続ける人 -
 - (ア) 世の中の動きを知る
 - (イ) お客様が求めることを知る
 - (ウ) 仕事に必要な、また、自分に不足する知識・情報・技術を少しずつコツコツと身に付ける

組織とは何か - 永続する組織の条件 -

 - (ア) 規律ある人材
 - (イ) 規律ある考え
 - (ウ) 規律ある行動

1つ1つの仕事の社会的使命(mission)を知り、理解、職業人としての責任を果たす

5 . 就職試験に臨むまでの手順

- (1) 自分は就職試験を受験する受験生であるという自覚をもち、自覚を深めること。
まずは就職を希望する企業名、就職先、業種を明確にすること。

就職を希望する企業、就職先、業界について調査、研究を行うこと。

(ア) 公表された資料はすべて読み、現場にも行く。(HP だけでは不十分)

(イ) 歴史、現状と課題を自分なりに文章にまとめ上げる。

企業理念、経営方針、代表的な取り扱い品目・サービス、特に社会的使命(mission)をできるだけ「理解」するように努める。

なぜその企業や組織に就職したいのかを頭のシンが痛くなるくらい考えた上で、志望理由を文章化、毎日数回音読(声を出して読む)、自分のことばでスラスラ言えるようにする。

- (2) 試験勉強の方法を考える

試験科目を調べ、対策を行う。

TOEIC 対策

(ア) TOEIC 運営委員会発行の TOEIC テスト新公式問題集第 2 巻、第 3 巻を最低 6 回ずつ学習。2 巻、3 巻をマスターしたと考えた場合は、第 4 巻に進むことをお勧めする。

(イ) 解答はすべてノートに書き、文法事項は「フォーレスト」で調べる。

(ウ) 公式問題集に出る単語はすべて辞書を引き、正確に理解、音読、書き取り練習で身に付ける。

(エ) リスニングの CD の Part 2、3 を重点的に聞く。When と Where を聞き分ける。1 回聞いて 1 点上げ聞くつもりで、何十回、何百回も繰り返し聞くこと。

(オ) 入社後も TOEIC は求められる。継続学習を。

(カ) 転職や大学院進学の際にも TOEIC のスコアは求められる。継続学習を。

SPI 対策

(ア) 問題自体は難しくないが、初めは解くのにとにかく時間がかかる。解けなければ話にならないので、ゆっくりでもよいから確実に解けるようにする。最初は解答を見ながらでも OK。初心者用の参考書をゆっくり学習すれば、問題自体は誰でも解けるのが SPI。

(イ) 一度やった問題でなぜそのような解答になるかがよく「理解」できたものは、問題を見た瞬間にパッと答えが出てくるようになるまで同じ問題を繰り返し学習すること。

(ウ) 解答はすべてノートに。

筆記試験対策

(ア) 中学校・高校の教科書、参考書、資料集をフル活用する。

(イ) 学校の教科書は一度勉強し、定期試験対策の勉強などは知識を定着させたことがあるものなので、アツという間に中学校時代、高校時代のレベルに戻る。

音読練習、書き取り練習、計算・問題練習も有効。

(ウ)新聞をじっくり読むことは就職試験に最も役に立つ。

* 大学や地域の図書館で毎日 1 時間以上新聞を何紙も読み続けること。

* 日本語で意味・内容がよくわかっている記事は、がんばって英字新聞の記事も少しずつでいいから読み続けること。

* 現代的な課題について論文を書くときには、新聞の社説や論説、コラム特集記事は有用。

(エ)文字は相手を読むことを前提に書けるようにしておくこと。楷書(かいしょ)、つまり学校の教科書のような書体で文字を書くことが不得意な人は、「ボールペン習字」を、薄い本 1 冊でいいから、ノートに繰り返し練習すること。

* 書類を送る封筒の文字も採用側は見ている。

コンピュータのスキルもできるだけ身に付ける。自分のレベルを明確に言えるようにする。

* ワード、エクセルが使えるようにしておくことよい。

エントリーシートの書き方や試験勉強の仕方が大事。各大学等の就職支援センター、キャリア支援センターなどをフル活用すること。

(ア) 採用試験に合格した先輩からアドバイスをもらうこと。

書いたものを見てもらったり、自分でも訂正し続けるとだんだん上手に書けるようになる。

(イ)一人でやってもよいが、アドバイスを求めたり、助けを借りたりすることも大事。

* 一人で悩まないこと。

集団討論

(ア)自分の考えをていねいな言葉で表現すること。

(イ)チームプレイができるかを見る試験官が多い。

6 . 就職試験当日の心得

(1)集合時間の 10 分前までには会場に到着する - 時間前に会場に到着できるのも大事な能力 - 前日までに一度は会場の下見を

トイレは会場に到着するまでに済ます - ただし、ガマンはしないこと - 会場に入る直前から会場から出るまで試験は続いていると考える

(2)服装第一

下着が透けて見える服装はしない

背広に白い靴下やスニーカーは合わない

髪型や髪の色、ピアス、指輪、ブレスレットに注意

(3)元気にあいさつ

小さい声は聞きにくい

明るく元気にあいさつを

(4) 躰(しつけ)

敬語表現を含む言葉遣い
です・ます調で話せる
美しい立居振舞
お辞儀の仕方も身に付ける

(5) 筆記試験

文字や数字をていねいにわかりやすく書く練習を
(ア)マンガ字は避ける
(イ)楷書で書く(書けなければペン習字の練習を)
試験中の態度にも注意

(6) 面接試験

ドアの開け方、お辞儀の仕方、椅子への着席の仕方の練習を。
背筋を伸ばし、相手の目を見て応答する練習を。
質問に対して、よく考えた上でゆっくりわかりやすく解答する練習を。
志望動機、入社してから取り組みたいことは必ず質問されるので、自分の考えを理由を付して明確に述べる練習を。

(7) 集団討論

議論の流れを踏まえ、理由を明確にした上で自分の意見をはっきり短く述べる練習を。
話していてシドロ・モドロにならないように話す練習を。
語尾が相手に聞き取れる練習を。

練習、練習、また練習。練習は不可能を可能にする。